

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(1/4)

	評価区分 (※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	正	4.3	4.2 <u>進捗度</u> ・特区発ロボットの商品化状況 150% ・実証実験等の実施件数 200% ・ロボット関連事業所の集積割合 54%	4.1 <u>規制の特例等</u> ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化 等 <u>財政支援等</u> ・生活支援ロボットの实証実験等の実施 等 <u>地域独自の取組</u> ・「インベスト神奈川」等による企業誘致の促進 等	4.5	<p>・特区の計画の方向性そのものは妥当であり、また進捗状況も全体的に順調であると思われる。</p> <p>・特区発のロボット商品化について、過去3年間の実績の中で、開発企業支援の方法とロボット商品化のプロセスを確立し、そのノウハウを活かして目標以上の実績を上げられたことと、複数の実証実験の支援プロジェクトの着実な実施による相乗効果で目標以上の成果が上げられていることは高く評価される。</p> <p>・事業所件数について、集積に結びついていないことは、ロボット産業が相模地域に根付くかどうかという点で懸念が残る。平成27年度同様、土地の取得に際し、他業種との競争で厳しい環境になっていることが原因の一つとの自己評価があるが、この指標の数値目標を達成するためには、集積の伸び悩みの原因を分析するとともに、他の取り組みに加え、圏央道開通も踏まえ製造業が立地しやすい環境をどう整えていくのか(物流施設等の立地条件の改善)を具体的に検討する必要がある。</p> <p>・相模地域の経済の活性化に寄与しているなら、その点についても説明が欲しい。逆に寄与していないなら、それは効果が局所的であることを示唆している。高評価となっているだけに、この成果をどう地域に広げていくかについても検討して欲しい。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。